

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<p>ひらがなの読みはほとんどの児童ができるが、濁音・半濁音等、書くときに文字がすぐに出てこない児童がいる。書き方の指導が十分ではなかった。</p> <p>・促音や拗音の書き間違いをする児童もおり、定着に個人差が見られる。文章の中で正しく「は」「を」「へ」を使うように指導する。</p>	<p>・正しく書くことが苦手なひらがなを大きく表示したり、促音や拗音を表記するときに声に出してから書かせたりする。</p> <p>・音読の機会を増やしていく。</p> <p>・文章を書くときに、「は」「を」「へ」に気を付けて書くように意識させ、書いた文章を読み返すことで気が付くことができるようにする。</p>	<p>・ひらがな、かたかな、漢字を正しく書く力をつけるために、正しい文字をなぞったり、書き写したりする活動を繰り返して行う。</p> <p>・読書の機会を増やし、語彙力を伸ばすとともに定期的に日記をつけることで、文章を正しく読んだり書いたりする力をつけていく。</p>
2年	<p>・漢字の読み書きは、新出漢字で言葉集めの時間を確保しているが、実際に文章を書く際の意識付けがまだ十分でない。</p> <p>・説明文では、文章を読んで答えるだけの問題は出来るが、2つの文章を比べたり、1つの文章をもとに具体的な情報を伝える説明を書いたりする指導の時間を十分に確保する。</p>	<p>・文章を書く際は、書いた文を自分で読み返して、学習した漢字に直すなどの習慣づけをする。自信がない場合は、漢字ドリルや教科書、使える児童は国語辞典など調べる習慣づけをする。</p> <p>・単元の第一時で行う学習課題をつかむ授業では、扱う文章をもとにどのような活動を行うのか、まずは自分の力で把握できるように促しその後全体で指導する。</p>	<p>・日記や感想文などを書く際は必ず見直しをさせる。</p> <p>・漢字や言語に関する宿題を継続して行いさらなる定着を図る。</p> <p>・「聞く話す」「読む」「書く」が複合的に扱われているプリントなどを使い、問題を理解し正対して解く力をつける。</p>
3年	<p>・漢字の書き取りについては、復習や漢字テストを通して繰り返し行っている。しかし、定着に個人差が出ている。</p> <p>・話を正確に聞き取らせる指導が不十分であった。</p> <p>・自分の思いや考えを読み手に伝わるように書けるよう、指導の時間を十分に確保する。</p>	<p>・国語辞典を活用し、言葉の意味を調べたり言葉集めをしたりする活動を通して、言葉の定着を図る。</p> <p>・漢字は繰り返しノートに書かせたり、小テストを行ったりするなど今後も反復学習を続ける。</p> <p>・話を聞く、話す活動は、相手や目的を意識して話したり聞いたりができるような課題を設定する。</p>	<p>・漢字や言語に関する復習プリントを活用し、漢字の読み書きのさらなる定着を図る。</p> <p>・関連する図書に関して平行読書をしたり、読み広げたりする活動によって、文章や言語に親しみ、読み解く力を育む。</p> <p>・自分の考えを交流する場を設け、話を聞いたり話したりする力を付けることに加え、考えを広げたり深めたりできるようにする。</p>
4年	<p>・「読むこと」については、何度も音読したり、皆で考えたりすることによって内容理解の定着を図るよう指導してきた。しかし、初めて読む文章については、時間内に内容を読み取ったり、自分の考えを表現したりする経験が不十分であり、正答率に個人差がでてしまったと考えられる。</p>	<p>・一部の児童の発言だけを取り上げるのではなく、児童一人一人の考えを表現する場を作る。</p> <p>・少人数グループなどで文章の読み取りを行ったり、読書活動を取り入れたりして、読む能力を身に付けるよう指導する。</p>	<p>・漢字は小テスト、まとめテスト等で合格ラインを上げたり、再テストを実施したりして、繰り返し練習を行い定着を図る。</p> <p>・宿題等で音読をたくさん取り入れ、文章理解を図る。</p> <p>・質問されていることを理解し、自分で考えて答えられるスキルを身につけるよう指導する。</p>
5年	<p>・漢字については、学習範囲の新出漢字を適宜指導、反復練習を行っていることで、定着度が高まっているが、取り組み状況に個人差があり、それが定着度の差に表れている。</p> <p>・文章を書く際に一文が長くなり、語句の関係性が分かりづらくなっているので、一文を短く書くよう指導する。</p>	<p>・日常的に文章を書く際には、既習の漢字を使うこと、一文を短くまとめて文章の内容をわかりやすくすることを意識させるようにしていく。</p>	<p>・朝自習等の時間を活用して、既習漢字の復習を行ったり、短い文章を書いたりする活動を取り入れる。</p>
6年	<p>・構想を立て、自分の考えを分かりやすく書くことを指導し、定着してきている。しかし、複数の情報から自分の考えをまとめることが不十分であった。</p>	<p>・情報からどのようなことが読み取れるのか話し合わせることで、多面的な情報の読み取りができるようにする。そして、読み取ったことから自分の考えをもたせ、書かせるようにする。</p>	<p>・学習中は常に辞書を用意し、活用させることで、正確に文章を読み取る力を伸ばしていく。</p> <p>・読み取ったことを話し合わせる時間を確保し、考える力を深めさせる。</p>

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社会）

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味関心は高いが、知識の定着に課題がある。地域の探検などの体験的活動を通して、定着させたい。 ・地図記号や方位など新たに学んだ用語の定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的活動を行う際には、児童に課題をしっかりと把握させ、ねらいに沿った活動ができるようにする。 ・学習のまとめでは、新聞づくりや発表会などを通して、自分の調べたことや考えたことを伝える場面を設ける。 ・地図の見方や地図記号などは、繰り返し提示したり地図で確かめたりして定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習を通して、インターネットの活用や資料などの読み取りの力を伸ばしていく。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心をもって学習に取り組んでいるが、グラフや表の読み取りの時間を十分確保する必要がある。 ・社会科見学や出前授業の実施により、興味関心を高める効果が上がっている。知識・理解を深める学習のまとめ方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳を活用したり、資料をもとに考える時間を設定したりするなどして、資料の読み取る力を伸ばす。 ・今後も、見学や体験的な学習を積極的に取り入れるようにする。その際、事前にねらいをしっかりと理解させ、事後は学習したことを新聞等にまとめ、知識・理解を深めたり、思考・判断力を高めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習したことを基礎として、興味・関心をもったことを自分で詳しく調べる活動を行う。 ・身近な地域を通して、学習したことをもとに他の地域でも一般化できるか考えさせる。 ・都道府県や地域・地名などをプリント等などを使い覚えられるようにする。身につけさせる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを自らの生活に結び付けて考える学習が必要である。 ・児童の知りたいと思うことをきちんと引き出してから調べ学習に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことと自らの生活のつながりを考える活動を通して、学習内容の理解度をより深めるようにする。 ・学習課題の設定では導入部分で丁寧に行い、資料などを活用して児童自ら調べたいことを設定できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容を踏まえて、自分たちの町ではどのようなことが行われているかを調べる活動を取り入れる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・図、文、グラフなどの資料を読み取り、考察し、事実を確かめるといった授業を展開してきたが、重要語句の押さえが不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの授業スタイルを大事にしなが、重要語句を取り入れて授業のまとめを児童が行うなど、まとめ方を改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、学習内容が具体的にイメージできるようにする。 ・単元のまとめに新聞づくりなどを行い、必要な資料を収集、選択し、適切にまとめられるようにする。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・答えが10以下のたし算・ひき算において、指や算数ブロックを使わなければならない児童があり、定着に個人差がみられるため、十分な復習を行う必要がある。 ・文章問題において、たし算かひき算か、文章から判断できるようにすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロックなど具体物操作を繰り返し行い、時間をかけて10の合成・分解のイメージをつけられるようにする。 ・文章問題においては、「あわせて」「のこりは」など、たし算かひき算を判断できる言葉に線を引くなど着目するように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答えが20までのたし算・ひき算は具体物操作に加え、フラッシュカードを活用し、反射的に答えを言えるよう習熟を図る。 ・たし算やひき算の簡単な問題作りに取り組ませ、児童同士で解きあうことで、文章問題を正しく作り・答える力をつけていく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を理解する上で、文章の読み取りにつまずきがある子、具体物・半具体物の表し方につまずきがある子、表すことは出来るが立式でつまずく子、と個に応じた支援が必要である。 ・位取り記数法の理解が不十分であるので、繰り返し確認することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題では、文章の大事な箇所に線を引いたりブロックなど半具体物を用いたり個に応じた支援を行い、式を導き出せるようにする。 ・数と計算を扱う場合は位取り記数法で繰り返し確認し、色々な言い方で数を表すなど数の概念への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの文章問題に触れられるような学習プリントを作成したり、東京ベーシックドリルを活用したりする。 ・数に関して、ブロック・位取り記数法・数直線を用いて視覚的に読み取ったり、文章に表したりすることでさらなる定着を図る。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・前学年までに学習した内容に関わる知識の定着が不十分であり、定着を確実にする計画的な取り組みが必要である。 ・式に表す、式を読む力を育てる指導が不十分である。条件が多いの問題に対して、必要な要素を取捨選択することができない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルを活用し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。たし算、ひき算、かけ算などの計算は、定期的に定着の程度を確かめ復習する。 ・事柄や数量、その関係を確実に理解できるように、問題場面について図に表したり、話し合う時間を十分に確保したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算や文章題、各単元のプリントを作成したり東京ベーシックドリルを活用したりして、年間を通して常に復習できるようにする。 ・課題把握の場面では、具体物や半具体物などを用いて、児童が課題を把握しやすいようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導においては、学力が低位な児童に対しては、基礎的基本的な知識や技能の定着を図るように指導してきた。その反面、考えさせる時間や経験が不十分となり、「数学的な考え方」の正答率の分散が大きくなってしまったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟の程度に関わらず、問題解決型の授業を進め、「数学的な考え方」の能力を伸ばしていく。その際、少人数指導の利点を生かし、児童の習熟に合わせた問題場面を設定する。 ・基礎的基本的な知識や技能の定着を図るだけでなく、児童一人一人が既習の内容を活用して未習の問題を解く力を身に付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数量関係領域（口を使った式、棒グラフと表）の正答率の分散が大きいことを考え、授業内での振り返りや宿題などの家庭学習を通して、確実な定着を図るようにしていく。 ・東京ベーシックドリルを活用し、知識、技能の定着度合の把握を図っていく。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習を行い、計算などの反復練習や個別指導を行うことで基礎的な学習内容の定着を図ることができたが、それぞれの学習内容を結び付けて活用する学習が少なかった。 ・学習内容を生活に結びつけながら理解をすることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習の良さを生かし、練習問題に多く取り組むことで理解を深めていく。 ・身の回りにあるものの数学的な観点で見ることが意識的に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の導入やまとめの時間に、具体物を数学的な視点を用いて説明をするなどの学習内容を取り入れる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じ、課題把握、自力解決、検討の授業を展開してきたが、それなりの成果は見られたと思われ。しかし、計算の習熟を図る時間が不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの授業スタイルを大事しながら、計算の習熟を確保し、東京ベーシックドリルを活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルを活用し、個に応じた指導を充実させる。また、宿題にも使用する。 ・場面を図などに表す活動を取り入れ、問題を的確に捉えられるようにするとともに、それを生かして説明できるようにする。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> 理科への児童の興味・関心は高く、進んで観察するが観点を決めて記録させる指導が不十分である。 観察する前にどうなっているのかを予想しているが、観察後に予想との違いを考察する機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察記録や学習シートを工夫する。観察する視点(色、大きさ、数など)を明確にし、絵を用いて、自分の考えをまとめやすくする。 予想→観察・実験→考察の過程を定着させ、自分の予想と結果を比べて考察できるように授業を組み立てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験を行う時には、児童一人一人の様子を把握し、グループの中で役割分担を明確にして指導する。 観点到って書かれている観察記録を全体で共有し、一人一人の観察の仕方や物の見方に生かすようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 「観察・実験の技能」の正答率の分散が大きかった原因として、授業内でグループによる実験・観察を行うことが多く、一人一人の技能の確かな定着を図ることができなかった。 「磁石の性質」の定着が低かった原因として、計画的に復習することができなかったことが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験・観察はグループで行うだけでなく、個人で行う機会を増やしていく。 理科T・Tを活用し、一人一人の技能の確かな定着を図っていく。 授業内で立ち返る指導を行い、計画的に復習することで、既習内容の確かな定着を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルを活用し、基礎的・基本的な定着を図るようにしていく。12月までに、3年生の学習内容について、全ての児童が確実に定着することができるようにしていく。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察の方法を覚えるのではなく、なぜその方法を使うのかなどの意味を理解してから取り組ませることが必要である。 結果からわかることを考察するための具体的な指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の方法を考える学習や、結果からわかることを考察する時間を確保したりし、知識と結び付けて考えることで理解を確実にしていく。 理科T・T、理科支援員と連携し、実験・観察を通して考察の仕方やまとめ方の視点を明らかにした授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項と新しい学習を結び付けて考えていき、繰り返し学習することで理解を確実にする。ワークシートなどで基礎知識の定着を図る。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 実験は少人数で行い、誰もが実験器具を取り扱えるようにしてきたが、定着していなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験器具の扱い方は、示範したり、ICT機器を活用したりして、確実に理解させるようにする。また、理科支援員、理科T・Tと連携し、各グループで正しく取り組んでいるか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想・計画・実験・まとめの過程を大切にし、主体的に取り組めるようにする。また、実験器具の取り扱い方は東京ベーシックドリルを活用する。